

ピーゼットシー筋注 2mg

【この薬は？】

販売名	ピーゼットシー筋注 2mg PZC INTRAMUSCULAR INJECTION 2mg
一般名	塩酸ペルフェナジン Perphenazine Hydrochloride
含有量 〔1管（1ml）中〕	2.36mg (ペルフェナジンとして2.0mgに相当)

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、精神神経用剤と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳内の神経伝達物質の受容体に作用してそのバランスを整えます。
- ・次の病気の人に、医療機関において使用されます。
統合失調症、術前・術後の悪心（吐き気）・嘔吐（おうと）、メニエル症候群（眩暈、耳鳴）

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・昏睡状態の人、循環虚脱状態の人
- ・バルビツール酸誘導体や麻酔剤などの中枢神経抑制剤の強い影響下にある人
- ・アドレナリン（ボスミン）を使用している人（アドレナリンをアナフィラキ

シーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く)

- ・フェノチアジン系化合物およびその類似化合物で過敏症の人

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・皮質下部の脳障害（脳炎、脳腫瘍、頭部外傷後遺症など）の疑いがある人
- ・血液障害のある人
- ・褐色細胞腫またはパラガングリオーマ、動脈硬化症あるいは心臓に障害の疑いのある人
- ・重い喘息、肺気腫、呼吸器感染症などのある人
- ・てんかんなどのけいれんをおこす病気のある人、または過去にてんかんなどのけいれんがあった人
- ・高温環境にある人
- ・脱水の人や栄養状態の悪い人
- ・長時間動かないでじっとしている人、長期間病床にある人、肥満の人、脱水状態の人
- ・肝臓に障害のある人
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人
- ・授乳中の人

○この薬には併用してはいけない薬 [アドレナリン(アナフィラキシーの救急治療、または歯科領域における浸潤麻酔もしくは伝達麻酔に使用する場合を除く) (ボスミン)] や、併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

- ・この薬は注射薬です。
- ・使用量、使用回数、使用方法などは、あなたの年齢、症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下がおこることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械の操作を行わないでください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳している人は医師に相談してください。
- ・幼児、小児では錐体外路症状（動きが遅い、眼球が上を向く、首のねじれやつっぱり、手足のふるえやこわばり、筋肉のこわばり、足がそわそわして落ち着かない）、特にジスキネジア（意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず噛むような口の動き、意思に反して体が動く）がおこりやすいので、これらの症状があらわれたら、医師に相談してください。
- ・高齢の人では起立性低血圧（脱力感、めまい、ふらつき、立ちくらみ、気を失う）、錐体外路症状、脱力感、運動失調（手足の動きがぎこちない、しゃべりにくい、ふらつき、まっすぐ歩けない）、排泄障害などがおこりやすいので、これらの症状があらわれたら、医師に相談してください。
- ・アルコール飲料はこの薬に影響しますので、控えてください。

- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
Syndrome malin (悪性症候群) シンドロームマリン (あくせいしょうこうぐん)	高熱、汗をかく、ぼーっとする、手足のふるえ、体のこわばり、話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、脈が速くなる、呼吸数が増える、血圧が上昇する
突然死 とつぜんし	気を失う
再生不良性貧血 さいせいふりょうせいひんけつ	めまい、体がだるい、息切れ、動悸(どうき)、あおさができる、出血が止まりにくい、発熱、寒気、喉の痛み
無顆粒球症 むかりゅうきゅうしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
白血球減少 はっけつきゅうげんしょう	突然の高熱、寒気、喉の痛み
麻痺性イレウス まひせいイレウス	便やおならが出にくい、吐き気、嘔吐(おうと)、お腹が張る
遅発性ジスキネジア ちはつせいジスキネジア	意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、意思に反して体が動く
眼障害 がんしょうがい	目のかすみ、物が見えにくい、目の異物感、目の痛み、視力の低下、まぶしい
SLE様症状 エスエルイーようしょうじょう	体がだるい、関節の痛み、発熱、顔の赤い発疹、体重減少
肺塞栓症 はいそくせんしょう	胸の痛み、突然の息切れ
深部静脈血栓症 しんぶじょうみやくけっせんしょう	発熱、皮膚が青紫～暗紫色になる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み
抗利尿ホルモン不適合分泌症候群(SIADH) こうりょうホルモンふてきごうぶんびつしょうこうぐん(エスアイエイディエイチ)	けいれん、意識の低下、意識の消失、吐き気、食欲不振

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。

これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	高熱、汗をかく、体のこわばり、体がだるい、出血が止まりにくい、発熱、寒気、突然の高熱、意思に反して体が動く、体重減少、けいれん
頭部	ぼーっとする、気を失う、めまい、意識の低下、意識の消失
顔面	顔の赤い発疹
眼	目のかすみ、物が見えにくい、目の異物感、目の痛み、視力の低下、まぶしい
口や喉	話しづらい、よだれが出る、飲み込みにくい、喉の痛み、吐き気、嘔吐（おうと）、意思に反して舌を動かしたり、出し入れしたり、絶えず嚙むような口の動き、唇が青紫色になる
胸部	呼吸数が増える、息切れ、動悸（どうき）、胸の痛み、突然の息切れ
腹部	お腹が張る、食欲不振
手・足	手足のふるえ、脈が速くなる、関節の痛み、手足の爪が青紫～暗紫色になる、下肢のむくみ、下肢の痛み
皮膚	あおあざができる、皮膚が青紫～暗紫色になる
便	便やおならが出にくい
その他	血圧が上昇する

【この薬の形は？】

形状	<p>無色澄明の液</p> 
----	---

【この薬に含まれているのは？】

有効成分	塩酸ペルフェナジン
添加物	ピロ亜硫酸ナトリウム、乾燥亜硫酸ナトリウム、アスコルビン酸

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：田辺三菱製薬株式会社

(<https://www.mt-pharma.co.jp>)

くすり相談センター

電話：0120-331-195

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、会社休業日を除く)